



子供みこしと傘踊りを実施 継立神社秋祭り

継立神社の子供みこし・傘踊り（継立神社祭典実行委員会主催）が9月17日に行われました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催規模を縮小して実施。参加した子どもたちは、太鼓と打ち手が乗った山車を交代で引っ張ったほか、みこしと賽銭箱を担いでパレードをしました。また、子供みこしの後は傘踊りが行われ、それぞれの練習の成果を発揮しました。



稲刈りとキノコ観察を実施 ふる里山くり山の米づくり

ふる里山くり山の米づくり（NPO法人雨煙別学校主催）が9月19日、ハサンベツ里山センターで行われました。稲刈りのほか、刈り取った稲を束ねて天日干しする、はざ掛け作業を体験しました。午後に行われたキノコ観察会では、北海道自然保護協会の伊達佐重さんが、町周辺で採れるキノコを紹介。また、ハサンベツで発見した、栗山町では珍しいツキヨタケを見学しました。



トラック協会から交通遺児のために 栗山町交通安全協会へ募金受渡

栗山町交通安全協会の第3回交通安全対策会議が9月15日、役場で行われ、同協会会員など25人が参加しました。大塚清康会長から「秋から冬にかけて交通事故が多発する時期になるので、より一層気を引き締めていかなければならない」とあいさつ。その後、トラック協会南空知支部の工藤英人支部長から、交通遺児のために集めた募金を大塚会長へ手渡しました。



老後の備えみんなで学習 町民講座「お金のおはなし」

いきいきスクール町民講座が、9月19日、カルチャープラザ「Eki」で行われ、約50人が集まりました。講演では、ファイナンシャルプランナーの星洋子さんを講師に招き「お金のおはなし お金のやりくり講座」と題して、老後2千万円問題や介護にかかるお金の話など、高齢者が不安に思うお金に関する内容を資料などを交えてわかりやすく説明しました。



日本遺産「炭鉄港」を活かした新たな価値 町民講座「歴史を知る・学ぶ炭鉄港」

町教育委員会主催による町民講座が、8月28日、カルチャープラザ「Eki」で開催されました。NPO法人炭鉱の記憶推進財団理事長の吉岡宏高さんを講師に招き「歴史を知る・学ぶ炭鉄港」と題した講演を行いました。講演の中で吉岡さんは「日本の経済を支えた炭鉱業などの歴史や資源の価値を知り、正しく理解していくことが大切です」と話していました。



栗山高生が広報取材にチャレンジ 栗山高校就業体験学習

栗山高校の2年生による就業体験学習（インターンシップ）が町内公共施設や企業などで、9月8日から2日間行われました。後藤陽太さんと北村実里さんの2人は役場の広報で、取材記事の作り方やカメラ操作などの説明を受け、実際の広報取材を体験しました。2人が作成した記事は、町ホームページで見ることができます。



学生たちが大地の恵みを体感 くりやま農業応援隊

北海道大学の学生が「くりやま農業応援隊」として、8月25日から町内の農作業をサポートしました。学生たちは農作業の指導を受けながらジャガイモの収穫や選別作業などを行いました。用川一雄さん（桜山）のほ場で収穫を行った北海道大学農学部2年の小林徹平さん（19歳）は「重労働だが、体を動かして楽しい」と笑顔で話していました。



若い力で介護の未来を明るく 北海道介護福祉学校第33回学校祭

北海道介護福祉学校の第33回学校祭とオープンキャンパスが8月29日に行われました。オープンキャンパスでは、道内各地域から介護士を目指す高校生17人が参加し、授業内容や学校内の様子などについて、介護福祉学校の卒業生から説明を受けました。校舎前の特設ステージでは、学生によるよさこい演舞の披露や、音に合わせて表現する模擬授業を参加者全員で行いました。

